

第三次多摩市子どもの読書活動推進計画の評価指標の達成状況について

【最終報告】

図書館においては、次期計画策定時に向け、第三次計画の実績を検証、評価する際のひとつの目安として「評価指標」を3つ設定している。

1 「子どもと本を楽しんでいる」と答える保護者の割合【5/30（第1回）から変更あり】

	平成 29 年度	目標	令和 5 年度
1 歳 6 ヶ月児健診受診者	9 5 %	9 9 %	9 1. 5 %※
3 歳児健診受診者	8 8 %	9 5 %	

※Logo フォームを活用したが、健診種別の設問設定をしていないため、まとめて算出
 <評価等>

➤今回の最終結果から、平成 29 年度の水準を保っていることが伺えますが、目標の達成には至りませんでした。引き続き、このような健診の場を活用し、多くの子ども達が数多くの絵本と出合えるよう、絵本の配付と共に楽しさを伝えていく必要があると考えています。

2 多摩市内の全保育園・幼稚園における団体貸出の利用率【5/30（第1回）から変更なし】

3 読書について「好き」「どちらかと言えば好き」と答える児童、生徒の割合

（マンガ、雑誌を除く）【5/30（第1回）から変更あり】

	平成 24 年度	平成 29 年度	目標	令和 5 年度
小学 2 年生	9 3 %	9 3 %	9 5 %	8 9 %
小学 5 年生	8 9 %	8 4 %	9 0 %	8 0 %
中学 2 年生	7 9 %	7 5 %	8 0 %	6 9 %
高校 2 年生	—	6 9 %	7 5 %	4 1 %

※高校生の数値は、有効回答数における読書をするかしないかの設問に対する「読書をする」と回答した割合

【参考】

	平成 24 年度	平成 29 年度	目標	令和 5 年度
大学生	—	—	—	6 2 %

※大学生の数値は、有効回答数における読書をするかしないかの設問に対する「読書をする」と回答した割合

<評価等>

➤小学生・中学生については、平成 24 年度から比較すると平成 29 年度までは一定の水準を保っているが、令和 5 年度ではどちらも水準を保てず、いずれも減少傾向となっています。

ただ、デジタル化が進み、学校だけでなく、自宅においてもタブレット等を使用している状況を考慮すると、高校生を除き、比較的小さな減少に留まっています。

➤高校生については、前回の調査から28ポイントの減少となり、目標値と大きく差が開く結果となりました。読書をしない理由としては、塾等での勉強や部活動、趣味活動などに時間を使っている傾向が伺え、読書活動を行う時間がないというアンケート結果となりました。

一方で、読書はしないけれども図書館に一緒に行く人がいると回答した高校生が多数いることも分かり、高校生にとっての図書館は、自習等、本を読むこと以外の目的で来館していることが分かりました。こうした子どもたちと本をどのようにつないでいくかも課題であると考えています。

➤参考となりますが、大学生については、趣味としての読書をしていると回答した割合が62%と、高校生よりも高い水準で読書しているという結果となりました。